

北陸3県における誘致率を用いた観光の魅力の定量化に関する分析

九州大学 学生会員 鴨川幹大
九州大学 正会員 馬奈木俊介
正会員 中村寛樹
正会員 玉置哲也

1. はじめに

観光は、近年、経済波及効果が大きい分野となり、注目を集めている。2006年には観光立国推進基本法が成立し、日本の重要な政策として明確に位置づけられた。2008年には観光立国の実現に向けて観光庁が発足した。この流れに伴い、地方自治体でも観光政策への取り組みが盛んにおこなわれている。観光の経済効果により、地域活性化や雇用機会の増大が期待され、観光政策の重要性は年々増大しており、都道府県の多くが毎年観光戦略を策定している。その観光戦略の中で自県の観光の課題を明らかにしている。地方の県の多くは、自県の特色を生かした観光地の創造やターゲットに応じた観光客の誘致を課題として挙げている。

自県の特色を生かした観光戦略には、自県のみならず隣県との観光地の魅力度の差を定量的に把握し比較することが必要である。周りの観光地と比較し、自県の特色を明確にし、より効果的な観光戦略を考えることができる。ターゲットに応じた観光客の誘致には、その観光客の属性を把握することが必要である。観光客の居住地ごとに移動費用や交通手段を定量的に把握することで、ターゲットに応じた観光客の誘致の政策を考えることができる。

本研究では、石川県・福井県・富山県の北陸3県を対象に、観光地としての魅力を定量化し比較して、その要因を分析することを目的とする。47都道府県を8つの地区に区分し、その地区ごとに観光地の来訪者の旅行費用・誘致率を算出することで、

地区ごとに北陸3県間の観光地の魅力を比較した。

2. 先行研究

濱田(2011)は、湯田温泉と萩の観光の魅力を、誘致率を用いて分析している。二つの観光地は、宿泊者数に大きな差異はなく、宿泊者数だけを見ると魅力に大きな差異はない。しかし、誘致率を用いてことで、二つの観光地の魅力に大きな違いがあることを明確にした。また、観光地の来訪者の居住地情報や交通利用情報をもとに回帰分析を行い、観光地の魅力の定量化モデルを構築している。

小幡(2008)は、旅行費用法を用いて鞆の浦の観光地としての魅力を評価している。鞆の浦への観光客の旅行費用や訪問回数の情報をもとに、評価額を算出している。居住地ごとの一人当たりの旅行費用と訪問回数の情報をもとに需要関数を推計し、相関があることを明らかにしている。

3. 内容

3.1 旅行費用法の算出

移動費用は観光客を居住県ごとに区分し、その居住県から目的地までの移動費用を航空・鉄道・バス・乗用車の交通手段別にわけて計算している。また、時間費用は、観光客の居住地ごとの一人当たりの一分当たりの余暇時間を算出し、その値と観光客の居住地ごとに目的地までの往復所要時間の積で計算し、移動費用と時間費用

の和を旅行費用とする。一方、誘致率では濱田（2011）をもとに居住県ごとの目的地への年間旅行者数を、その居住県の人口で除したものと定義している

3.2 データ

旅行費用法には、第5回（2010年度）全国幹線旅客純流動調査と石川県、福井県、富山県が逸れられ発表している観光客入込数の推計のデータを採用した。本研究で扱う観光客数は、全国幹線純流動調査の観光のみを目的した都道府県間流動表のデータを使用している。

誘致率の算出には、上記のデータに加え2010年度の国勢調査のデータを採用した。

4. 分析結果

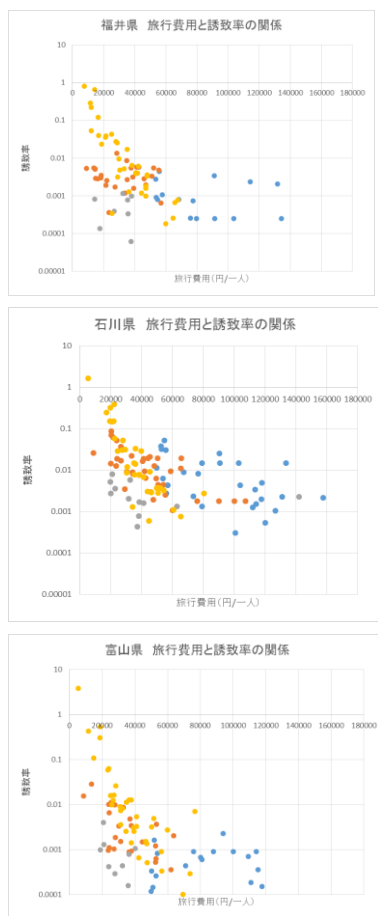


図1 北陸三県の誘致率と旅行費用の関係
(交通手段別)

北陸3県における各都道府県からの旅行費用及び誘致率を計算したところ、図1のような結果が得られた。この結果より、福井県は近隣県から乗用車を利用して訪れる観光客が多い一方、石川県においては、航空を利用した中長距離の都道府県からの観光客が相対的によく集まっていることがわかる。また、濱田（2011）をもとに、北陸三県の魅力についても推計し、富山、石川、福井の順で魅力が高いことが判明した。

参考文献

- [1] 濱田泰（2011）：「観光統計を活用した観光地の魅力の定量化についての研究」，山口大学大学院東アジア研究科博士論文
- [2] 小幡大次郎（2008）：「トラベルコスト法を用いた靛の浦の観光地としての魅力に関する評価」，第35回土木関東支部技術研究発表会